

議員が見て来たものは！感じたことは！

町の中だけでは知り得ぬ事業等を視察しました。

エンディングプラン・サポート（終活）事業

12月17日（火）

「ちよつと信じられないかもしれないが、今、10人が亡くなるごとに1人が無縁遺骨になるそんな大都市が、もうこの国の中にある。自分の死に自ら責任を持つ時代を迎えている」と、話したのが、この事業の創設に携わった横須賀市民生局の北見万幸特別福祉専門官。横須賀市は、平成27年に身寄りがなく生活にゆとりのない高齢者の死後の葬儀、納骨方法などを生前に策定する「エンディングプラン・サポート事業」が始まり、平成30年には、本籍や緊急連絡先、かかりつけ医などの情報が登録できる「わたしの終活登録」も開始され、万が一の際に本人の意思を尊重する支援をしている。これら取組は、全国の自治体からも注目を集めている。ひとり暮らしで身寄りがなく、生活にゆとりがない高齢者等の葬儀などに、市と葬儀社が連携して、公費を使わず、自身の生前契約とプランを組む

ことで、心配事を早くに解決し、生きいきした人生を送つてもうことが目的。携帯電話の普及に伴い、人の関わりが希薄になつてきている現代社会の課題に真つ先に取り組んだ事業に、感銘を受けた。一人ひとりの尊厳を守る大切な終活。

生きていくうちに死や死後について、相談にのるだけでなく、住民の終活努力に報いる、人に寄り添える行政が必要と思われる。視察をして、この事業の重要性とその背景を深く理解することができた。

（藤田 一則）



12月18日（水）

「デイサービス「ラスベガス」は、関東エリアを中心に約20店舗展開しているパチンコや麻雀が楽しめる介護施設。横浜市都筑区の施設を視察した。イメージとはまったく違う建物で、事前に少しの知識は持っていたが、麻雀台やパチンコゲーム台があり、その他にも楽しめるゲームがあつて、かなり驚いた。この日、社長の森さんから、直々に話を聞くことができた。大変だったのが、名前の「ラスベガス」、施設での麻雀、パチンコ、「ラスベガス」と書いている黒塗りの送迎車など、利用者の家族、役所や警察に理解してもらうことだったそう。説明を受けているあいだも、利用者が次々入つて来る。そうこうしているうち

ちに、運動の時間のようで、「ベガストレッチ」という全体運動が始まった。この運動は朝と昼の2回、そのほか部分運動が4回、1日計6回の機能訓練の時間を設けていた。運動が終わると、また、それぞれチーム毎に真剣な様子で、ゲームに興じていた。カウンターでは、新聞や本を読んでいる利用者もいた。「パチンコや麻雀などは、認知機能の向上だけでなく、勝てばうれしい、負ければ悔しいと

感情に刺激を与えることで脳機能を活性化することが出来る。」と、森社長は高齢者向けサービスにゲームングを取り入れたメリットを語った。高齢化社会の現在、貴重なインフラとしてニーズが増すことが予想される。高齢者の心身を元気にする施設を視察でき、大変勉強になった。

（岩根 環）



「カジノ×介護」で楽しく通える！デイサービス

